

## 地名の歴史と由来／「浜田山」の地名

幸田有美子(杉並区立郷土博物館分館)

### 町名の変遷

「浜田山」は、杉並区の南部に位置し、北部にある井の頭通りと並行して、中央部に京王井の頭線が走っています。また、西部には京王井の頭線「浜田山」駅が開設されています。その町域は、かつての下高井戸四丁目の大部分と下高井戸二丁目、上高井戸四丁目<sup>※1</sup>、永福町や大宮町の各一部からなります。町名は、昭和44年(1969)の住居表示実施後から採用されたもので、旧高井戸村の小字「浜田山」からとったものといわれています。

元来「浜田山」という名は、浜田山四丁目1番地から5番地あたりの通称地名でした。その由来は、かつてこのあたりに、江戸時代の商人である新宿の米問屋「浜田屋」の墓地や山林があり、地元ではこれをヤマと呼んでいたことが挙げられます。そして、大正末年までこのヤマは、所有者の名前とともに俗称で「浜田山」と呼ばれていました<sup>※2</sup>。そのため、明治期の地理調査の際に小字名として採用されたと推定されています<sup>※3</sup>。



写真1 「田植え風景(浜田山1丁目・昭和35年)」(当館蔵)

東京オリンピックのころより水田に濁った水が入るようになっていき、次第に風景が変わっていきました。

さて、現在では「浜田山」という名は、町名だけでなく、京王井の頭線の駅名でもあります。浜田山三丁目にある「浜田山」駅は、昭和8年(1933)に帝都電鉄(現:京王井の頭線)が渋谷駅から井の頭公園間を開通した時に開設された駅です。住居表示実施以前に、駅名として「浜田山」という名が採用されており、その由来は、町名の由来と同様であると推測されます。

### 残されるかつての通称地名

現在、浜田山二丁目5番地には、平成16年(2004)に「柏の宮(かしのみや)公園」が開園しています。園名の由来は、この公園の近くにある「下高井戸八幡神社」(下高井戸四丁目)と関係があります。

この神社は、室町時代、太田道灌が家臣・柏木左衛



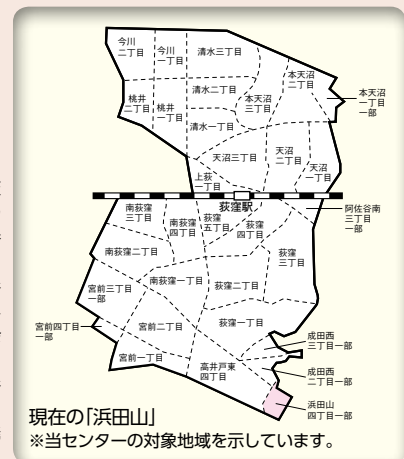
写真2 「柏の宮公園」(筆者撮影)

住民参画として「公園育て組」が園内で活動をしています。

門尉に建立させた、「鎌倉鶴岡八幡宮」の別殿であり、古くから「柏の宮」と呼ばれ、昭和20年頃までは、このあたりの通称地名でもありました<sup>※3</sup>。

やがて現在の公園のある場所は、大正期半ばになると、金融業と醤油製造業を営んでいた横倉善兵衛によって整備され、数寄屋を建てた「柏ノ宮園」がつけられました。

昭和25年(1950)、「柏ノ宮園」は、日本興業銀行(現:みずほ銀行)の「柏の宮総合グラウンド」となり、平成16年(2004)には、「杉並区立柏の宮公園」として開園し、古くからの名である「柏の宮」の園名は、現在にかつての名を残しています。



現在の「浜田山」

※当センターの対象地域を示しています。

※1:「浜田山」の大半を占める上・下高井戸村の変遷については「町名の由来と今 第8回」を参照

※2:『文化財シリーズ37杉並の通称地名』(平成4年・杉並区教育委員会発行)

※3:『文化財シリーズ19杉並の地名』(昭和53年・杉並区教育委員会発行)